

パレットヒルズ構想 改訂版

第1版 平成25年8月

第2版 令和2年2月

鷹栖町総務企画課

The logo for Palette Hills, featuring the words "Palette Hills" in a stylized, colorful font. The letters are filled with a rainbow gradient and have a white outline. The "P" is the largest and most prominent.

平成25年に策定した
第1版の基本的な考え方を踏襲
(p3~8)

基本方針

Palette Hills



自然と
共生した杜

町民と行政と
の協働作業に
よる手づくり
の杜



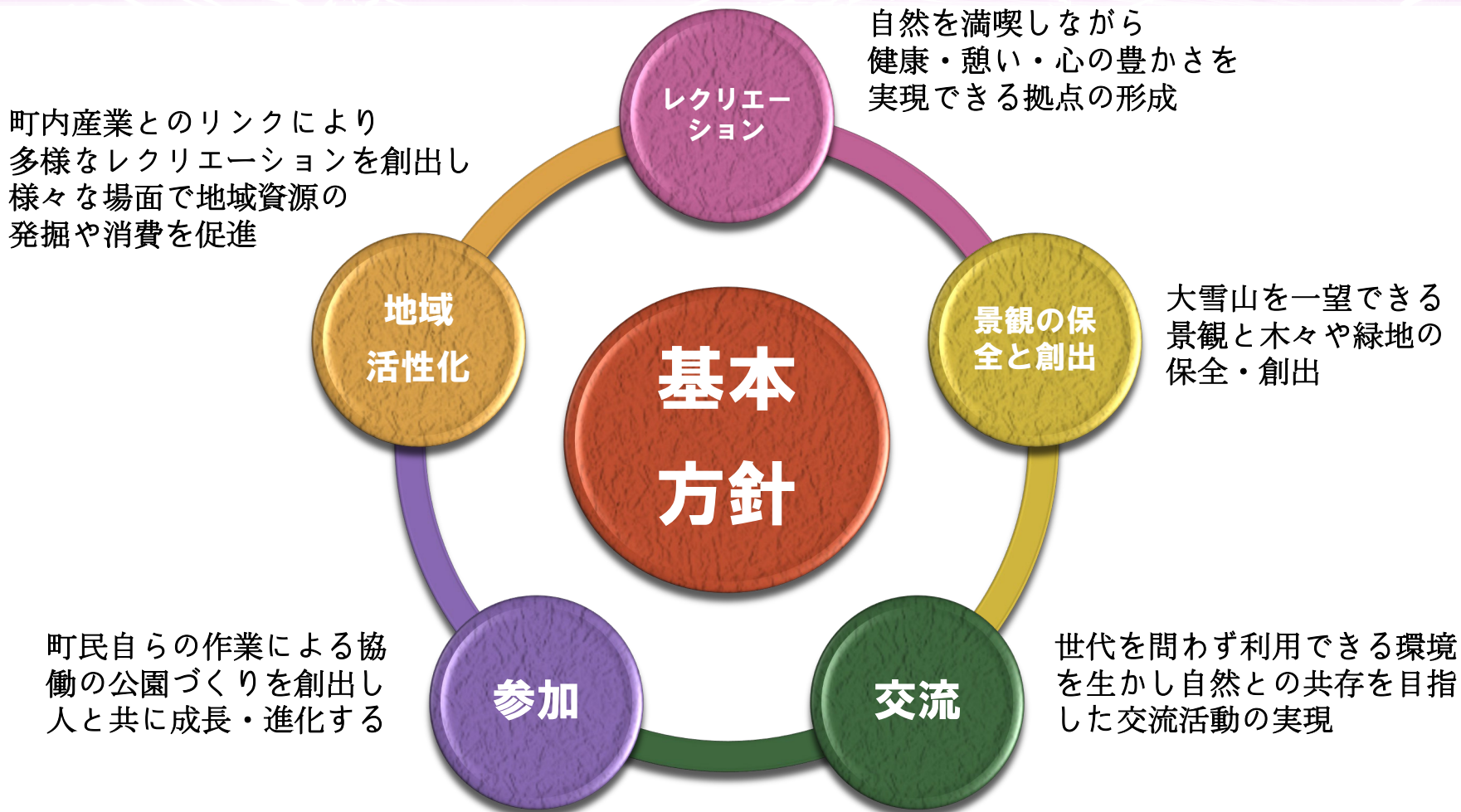
自然体験など
新たな観光資
源としての杜

次世代に引き
継ぐ町民の杜



テーマ：自然との共生の中で健康・心の豊かさ・楽しさに満ち町民と共に常に進化し、四季を通して自然を満喫できる21世紀型公園

Palette Hills



整備方針の4つのポイント

～持続可能な公園づくり～

Palette Hills

人と自然との共存を目指して 環境保全の取組

- ◆自然環境資源の魅力を活かした自然とのふれあいの場を提供するため、今ある環境を大切に、多様な空間を創出する
- ◆自然環境に配慮した事業手法を採用し多様なニーズに応じたプログラムを提供する

公園パートナーと魅力づくり 町民との協働

- ◆公園パートナーとして、これまでの植樹以外での公園づくりへの参加ができる場面の創出
- ◆町民参加のイベント実施
- ◆公園管理運営への町民参加によりニーズの変化に対応できる体制の堅持

誰もが快適に楽しめる空間 福祉社会の対応

- ◆高齢者をはじめとした福祉社会への対応として、施設にはユニバーサルデザイン化を施し様々な人が利用できる環境を創出
- ◆子どもをはじめとして、安全安心を守れるよう配置しながら親しまれるよう整備

次世代への継承づくり 広域レク需要

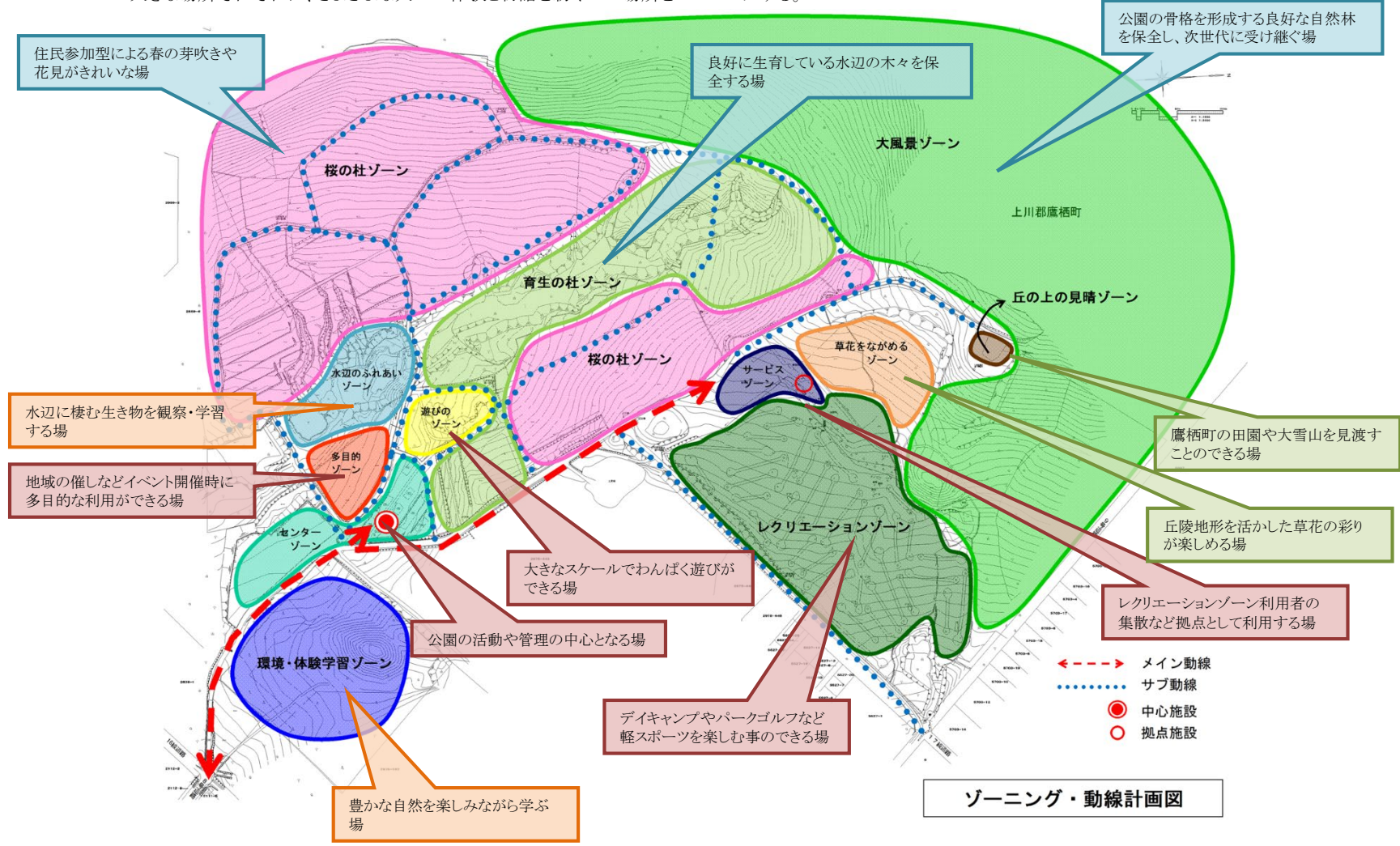
- ◆既存のパークゴルフ場を含め、ハイキングやピクニック、トレッキングなど家族で楽しめるアウトドア活動の需要に対応した整備
- ◆家族が1日遊んでも満足でき、リピーターとして再来場を望むレクリエーションニーズを創出
- ◆多人数でも対応できるサービス施設の充実

整備コンセプト

■ 利活用ゾーニング・動線計画

4つの大きな場所それぞれに、さまざまな人々の体験と物語を紡ぐ12の場所をゾーニングする。

- 楽しみの場所**
「人と人の交流が育まれる場所」
- ふれあいの場所**
「自然豊かな緑や生き物とふれあい・学ぶ場所」
- のんびりする場所**
「市街地の眺望と草花の彩りがきれいな場所」
- 守り・育てる場所**
「次世代へと引き継がれるみどり豊かな場所」



ゾーニング・動線計画図

桜の杜ゾーン
 ・住民参加型による春の芽吹きや
 花見がきれいな場

育成の杜ゾーン
 ・良好な水辺環境を保全する

大風景ゾーン
 ・公園の骨格を形成する良好な自然林

サービスゾーン
 ・駐車場
 ・トイレ

上川郡鷹栖町

丘の上の見晴ゾーン
 ・鷹栖町市街地の眺望ポイント

遊びのゾーン

水辺のふれあいゾーン
 ・沢水を利用した流れ・池での観察、学習

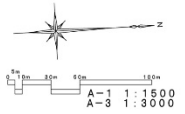
多目的ゾーン
 ・催しなどに利用できる芝生の多目的広場

センターゾーン
 ・駐車場・トイレ
 ・管理棟・ミントなどのキッチンガーデン
 ・水遊び場
 ・草花類のボーダー植栽
 ・屋根付休憩施設等

環境・体験学習ゾーン
 ・良好な自然環境を活かした学習広場
 ・解説板
 ・ベンチ等

草花をながめるゾーン
 ・丘陵地形を活かした
 コニファーガーデン
 ・散策路・屋根付休憩施設等

レクリエーションゾーン



パレットヒルズ 基本計画図

今後に向けた課題

管理運営計画

管理運営計画の基本的な考え方

運営組織の立上げ～公園づくりの参加・活動の展開

「パレットヒルズを考える会」などとの連携を図りながら、**町民参加型の管理・運営を目標**とするのが望ましく、事業の進行段階に併せ、**行政と協働で管理・運営のマニュアルづくりを進める**ことが必要となる。

運営組織

運営体

- ・公園における活動の展開やプログラムを企画・実行する。
- ・運営組織を通じて、ノウハウの蓄積や人材育成を進めていく。
- ・町内の小中学生に向けて、参加募集のPRを行い、公園づくりに参加する子どもたちの(仮称)「つくり隊」の組織化を目指す。

野外体験学習グループ

- ・ワークショップ、フィールドワーク、グランドワーク、アートワークなど幅広い展開を進め、楽しい野外体験学習を提供する。
- ・フィールドワークでは「環境学習」、グランドワークでは「公園づくり体験」、アートワークでは「環境芸術」を主なテーマとして進めていく。
- ・プログラムリーダー及びブレイリーダーとしては、ボランティア・NPOで活動している市民や大学生を中心に、「自然観察指導員」などの資格を持った人材や、パレットヒルズに精通している経験者を確保する。

4-2 運営ノウハウと人材発掘・育成

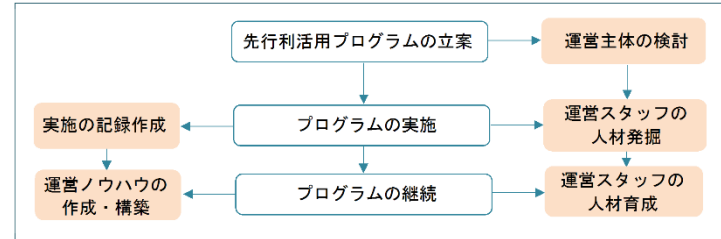
先行利活用プログラムの実施

本公園の適当なエリアを利用した定期的な体験型ワークショップを開催しながら、体験学習運営のノウハウや公園内の良好な自然資源などの情報を蓄積しつつ、**継続的に運営に参加してくれる人材を発掘・育成**していくことが望ましい。

体験型ワークショップの開催にあたっては、特に以下の点に留意する必要がある。

- ①体験型ワークショップが単なるPRやイベントに終わらないよう、関連する団体などと主旨や方向性を整理し、年間を通したプログラムの具体的な内容や費用、また求める成果について検討する。
- ②プログラム運営に携わるスタッフについては、当初は委託も考えられるが管理・運営団体などのプロパーを育成することを目指すため、できるだけ早い段階から可能性のある人にプログラムに参加してもらうことが重要である。
- ③得られたデータや実施した後の反省など、プログラムの質の向上を図るため、プログラムの記録を整理・保管することが重要である。

先行利活用プログラムの流れ



先行利活用プログラム案

体験型ワークショップの活動内容について一例を示す。

季節と公園物語づくり	物語のテーマ	プログラム
春の風景をさがす 芽吹き風景	森づくりの準備 自然感動体験	植物といのちの景 植樹 観察・写生 バーベキュー
夏の風景をつくる 森の風景	昆虫マップ 発見感動体験	アートと音の景 昆虫さがし 鳥の声 ピザづくり
秋の風景にふれる 紅葉の風景	オブジェ試作 創作感動体験	彩りと実りの景 どんぐり拾い 下敷きづくり やきいも
冬の風景とあそぶ 雪の風景	雪の造形 しほれ感動体験	水と光の景 イグルー かんじきウォーク 豚汁

4-3 財源の確保

都市公園の利活用の現状をみると、**数多くのボランティアによって支えられているのが実情**であり、環境・体験学習事業が独立採算で成り立っている例は全国をみても数少ない。参加者を集め、体験学習プログラムを実施するためには、**実費徴収だけでは無理でプログラム立案にかかる調査研究や企画、広報宣伝等に費用がかかる**。また、プログラムリーダーを補佐する人材についても、いわゆる**無償のボランティアだけでは実施するうえで確実性に欠ける**。少なくとも**責任を持って取り組んでもらえるような報酬**についても検討する必要がある。また、**プログラム実施中の事故に対する責任の所在と保障**をするための**保険も必要**である。

一つの提案として考えられるのは、**緑の啓蒙活動の一環として環境保全への関心が高い企業の参加を得て、プログラムの共催や協賛金を求めていくことや、指定管理者制度導入による、協働運営によって経費の削減と効率的な運用を図っていく**ことが考えられる。

基本構想の振り返り・今後の展開 検討

- 平成27年に策定した「整備基本設計」を反映
- 令和元年に開催した「パレットヒルズを考える会」における議論



新たな整備・管理運営・利活用方針を示す

「第2版基本構想」を検討

基本方針(R2～重点事項)

- ・元の自然に配慮した園路整備
- ・頂上までの散策路整備
⇒森林整備事業として「実のなる木」の植樹など検討。公園内の樹木との差別化
- ・厳しい冬も楽しむ。冬季利用の方法について課題整理、調査研究

自然と
共生した杜

- ・植樹祭の継続実施、杜づくりの推進
- ・管理運営団体を軸とした参加型の整備
⇒歩経路チップ敷均し、草花の植栽、分かりやすい案内看板の検討、図鑑づくり 等

町民と行政との
協働作業による
手づくりの杜

ニューツーリズムを
意識した観光資源
としての杜

- ・キャンプ場としての利用促進、施設整備
- ・園路整備に伴う新たな活用方法の展開
⇒スポーツや健康づくりに活用できるよう、関係機関/団体との検討

次世代に引き
継ぐ町民の杜

- ・次世代を担う子どもたちの利用促進強化
⇒参加したくなるイベントの創出、交通手段の確保

整備方針について

- ✓ 1 2 のゾーニングを維持し、利用促進に資する整備事業の推進
- ✓ 整備コンセプトに即した第2期工事の具体化

- ・園路整備及び新たな利活用方法の創出
- ・キャンプ場運営に関する必要な整備
(水飲み場兼炊事場、貸出用リヤカー等)

◎ソフト面についてはできる事から取り組む(管理棟の活用)
⇒サイクルラックづくり、雨合羽レンタル、常設薪割り体験、
講演会:野外で算数 等

基本方針の実現に向けた5つの 整備・利活用策

① キャンプ利用促進

② 新たな活用方法

(トレイルラン、ルディックウォーキング)

③ 杜づくり、植栽の増強

④ 冬場の活用

(クロカンコース、冬のアクティビティ)

⑤ 案内看板の整備

① キャンプ利用促進

- ファミリー層、ソロキャンパー等客層を想定したキャンプサイトのゾーニング
⇒街路灯等は最小限とし、「暗くて静かで星が見える」
キャンプ場の魅力を打ち出す
- 利用客増を見据えた運営ルールの制定(受付方法、ゴミ対策等)及び周知・徹底、有料化検討
- 公園全体の自由度を維持しつつ、利用者のマナーやモラルによりきれいで安全安心な公園管理が実現できていることを周知し、誰もが気持ちよく利用できる環境を守る

キャビン、バンガロー、センターハウスなどキャンプ設備のさらなる拡大は、運営体制が整ってから必要性の深堀を進める

ゴミが落ちていない、きれいで環境に配慮しながら使うキャンプ場。「ルールを守れない利用者は来なくてもよい！」という強い意思表示

②新たな利活用方法 その1

- パークゴルフ場の継続運営及び利用客の多目的利用推進 ⇒年間1.4万人の来場者を公園全体へ波及させる仕組みづくり
- 園路整備に伴う新たな利活用の展開
⇒スポーツや健康づくりに活用できるように、関係機関/団体との検討

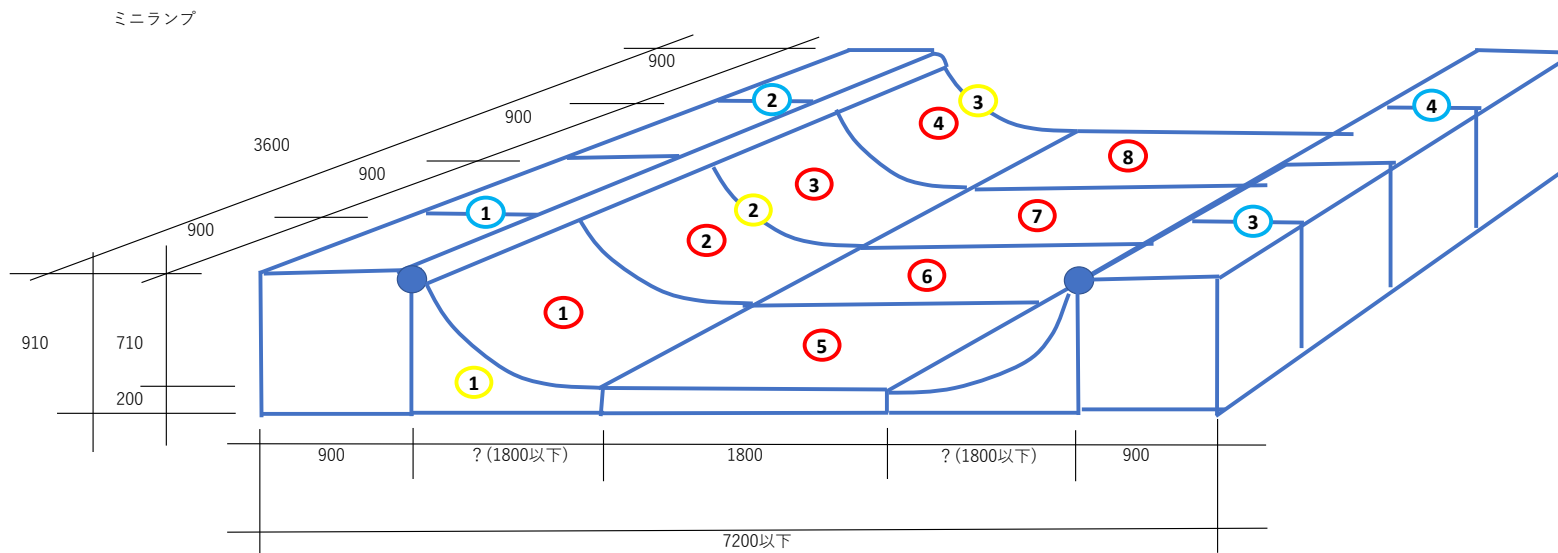
◎具体的な取り組み(案)

- ・公園内を周回するトレイルラン、ノルディックウォーキング
- ・芝生広場を活用したヨガや健康運動教室
⇒必ずしも新規・独自の取り組みでなくても、第1期工事で施設が整ってきたことを周知し、当公園での出張開催を呼びかけ、既存の屋内事業を呼び込む。

②新たな利活用方法 その2

地域おこし協力隊 菅野隊員の発案

- スケートボードパークの(試験)設置
現状の利用者層の子どもでも高齢者でもない、現役世代(10~50歳代)の利用促進として
- 個別ホームページ作成による情報発信強化



③杜づくり、植栽の増強 その1

- 森林など自然を保全しつつ、草花を適所に植栽し、園内散策の見どころを創出
 - ⇒休憩しながら散策できるよう、平行してベンチ等休憩施設の整備(園内周遊ニーズの充足)
- オニグルミを植樹し「クルミの杜」(仮)の造成
 - ⇒リスや野鳥類観察のフィールドに
- 草花を観賞できるスポットを
 - ・遠くからでも見ることができ、彩りがある
 - ・散策しながら鑑賞できるよう随所に(具体案:月見草)

③杜づくり、植栽の増強 その2

✓ 混播法による杜づくりの推進



生態学的混播・混植法(以下、混播法<こんぱほう>という。)は、裸地を地域の在来種で自然な林に再生または回復される植樹手法として開発されたもの。「桜の杜」ゾーン奥部分を協働の杜づくりの実践の場として森林化を進める。

- 1年目(R2) 5月さくらフェスタ・10月植樹祭においてタネ採取、まきつけ、基盤整備
- 2年目(R3) 生長の早い樹種からポットに移植(平行して1年目作業継続)
- 3年目(R4) 1・2年目作業継続しつつ、ポット苗を混播・混植(春実施)

④冬場の活用

- 管理棟周辺を冬季間も使用できるように、クロカンコースの一部変更を検討
 - ⇒園路整備によってコースレイアウトの選択肢が増し、クロカンと冬のアクティビティの共存が可能に
- 冬のアクティビティの定着による冬季間利用の認知・参加
 - ⇒冬キャンプ(キャンプ開放日の設定)、タカスノーランド
- 冬季間利用の拡大を見据えた管理棟の有効活用

⑤案内看板の整備

- 数多く寄せられる課題として、案内看板が無く、「どこに何があるか分からない」との声
⇒実施設計に基づく計画的な設置
- 最低限の部材(支柱、基礎等)のみ施工・準備し、手づくりの看板製作など安価かつ協働によるサイン製作の方法などを調査研究する
- 景観への配慮と分かりやすさを考慮しながら、園内に調和する統一的デザインの推進

ワークショップの継続実施(案) 1

■ みんなで考える水飲み台兼炊事場デザイン

「考える会」において、使いやすい水飲み台(子どもが裸足で遊んだ後、足を洗う流し台)とキャンパーが必要最低限の洗い物等を済ます炊事場について意見があった。施設の必要性についての議論にとどまらず、機能面や外観についても踏み込んだ議論を継続し、利用者が真に使いやすいと感じる施設整備を目的とする。

■ みんなで考える「桜の杜」看板デザイン

「桜の杜」入口に、過去に案内看板であった錆び付いたフレームが放置されている。見栄えの悪い負の遺産を生かし、新たな案内看板又は写真撮影時のフレームとして、再生方法やデザインを検討する。桜の杜の整備経過などパレットヒルズの象徴的な場所として、ストーリー性を重視した取り組みとする。

ワークショップの継続実施(案) 2

■ 「考える会」の継続開催

現在のところ、管理運営団体の組織化の目途は立っていない。しかし、考える会ワークショップの開催を通じ、行政と町民との平場の議論によって、パレットヒルズを良くしていこうという機運が芽生えつつある。整備方針検討のための一過性の会議体とせずに、今後も継続的にテーマを設定して開催するとともに、現在は公募及び関係機関の少人数で開催にとどまっているため、各メンバーから参加人数の拡大を呼びかけてもらう。「パレットヒルズのファン」を増やし、人材発掘や仲間づくりの広がりを目指し、協働による「町民手づくりの杜」を実践していく。



管理運営団体の組織化を見据え

継続開催・協議⇒合意形成から主体形成へ